

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 佐那河内小学校
 種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）
 所在地 〒771-4101
 徳島県名東郡佐那河内村下字中川原30
 E-mail sasyou@tgn.tcn.ne.jp
 Website http://e-school-tokushima.or.jp/sanagouti/htmi/htdocs
 児童生徒数 男子 61名 女子 32名 合計 93名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域ふるさとに誇りをもつ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○はじめに

本校は、郷土佐那河内に誇りをもち、心豊かにたくましく生きる児童の育成を教育目標に進めている。豊かな自然環境の中で、地域の特性を生かしながら、『人・出会い・学び』を通して、地域の方からたくさんのことを教わり、学んでいる。ふるさと佐那河内村に生きる一人として、地域を知り、受け継いでいける。

○学年の取り組み

《1年生》

保小の連携を確かなものとするために、スタートカリキュラムを始めた。幼児教育の成果を小学校教育に生かし、子どもが安心して学校生活を送るようになるためである。今までも多少なりとも交流は行ってはいるが、年間を通して交流活動を実施し、人との出会いを楽しむ活動を工夫した。

- 6月 いもほり
- 7月 ネイチャーゲーム
- 9月 絵本を作ろう
- 11月 あきのフェスティバル
- 2月 体験入学

《3年生》

1 第3学年の実践

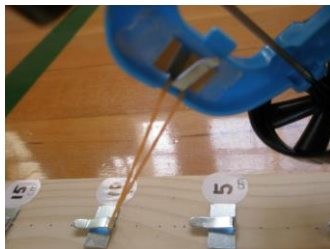
(1) 「科学が好きな子どもを育てる」ための創意工夫

第3学年の「風やゴムのはたらき」では、児童が台車から手を放す瞬間に他の要素（振動や滑り）が加わり、台車の走る距離が短くなったり、方向が変わってしまったりして実験結果にふぞろいが生じてしまう。このような実験では、児童が仮説を実証しようとして実験を複数回行っても同一の結果が得られない。今年度は安全性を高める改善を行い実験に使用することにする。

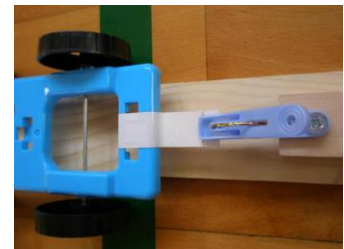
「風やゴムのはたらき」発射台・・・2010年作製・2015年改

①

ア



イ



ア. 発射台に固定された輪ゴムを車に引っ掛け、輪ゴムを引く。

イ. 車の後ろに付けてあるビニールテープを洗濯はさみではさみ固定する。

ウ



エ



- ウ. 輪ゴム→車→洗濯はさみが一直線に発射台の上に並ぶ。
- エ. 洗濯はさみを押せば、輪ゴムの縮もうとする力によって車は走り出す。

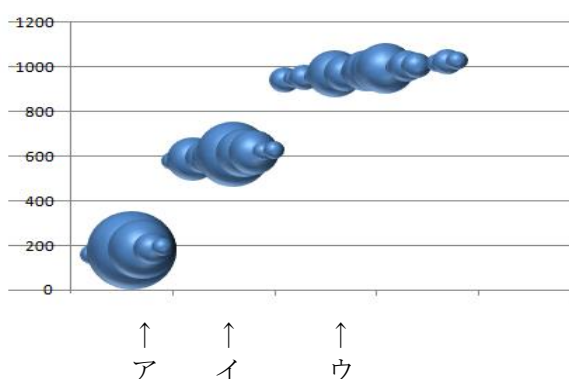
② 射台を使つての教師実験の結果 (いずれも計測を 50 回実施)

③

ア	距離	155	160	165	170	175	180	185	190	cm																			
	回数	1	1	3	11	19	11	3	1																				
イ	距離	575	580	585	590	595	600	605	610	615	620	625	cm																
	回数	1	2	6	3	4	6	13	7	6	1	1																	
ウ	距離	940	945	950	955	960	965	970	975	980	985	990	995	1000	1005	1010	1015	1020	1025	cm									
	回数	2	1	2	1	2	3	4	2	5	6	8	1	3	2	0	2	1	1										

③ データの分布

アはゴムの伸び 5 cm
 イはゴムの伸び 10cm
 ウはゴムの伸び 15cm



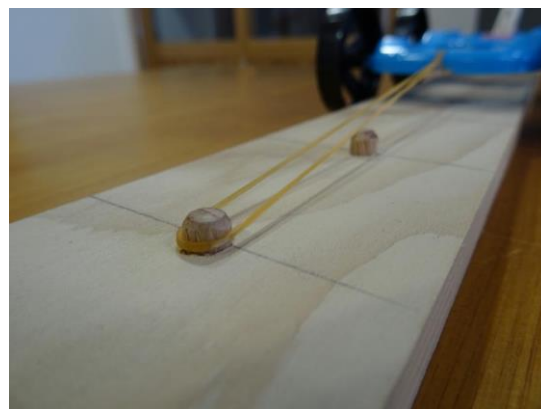
④ 考察

先に進んだところで中心線より左右 1 m ほどの幅の範囲で止まる。

走る距離や方向について、児童が実験を行っても同じような結果が十分に得られ、ゴムの伸びと車の動く距離とを関係付けて考えることができると思う。

⑤ 2015年度 安全性を高める工夫

板に穴を開け、「ほだ」をさしてゴムを止める場所にする。これにより安全性が高まったと考える。



手だて① 自由試行	子どもが主体的に学ぼうとする場
--------------	-----------------

「ゴムの力だけで走るように、障害物がなく平らで、子どもたち全員が動ける広い場所」ということで体育館を使う。自由試行をしたあと、実験を始める。

実験の結果を共有できるように、一人一人の結果をホワイトボードに書き込む



考察の場面では

「平均」を求めるようなことはせず，m未満は切り捨てるようにし，1番多いところを結果の数値にして考えさせた。
 ワークには，自分の出席番号以降の3人の記録を書きこむことで，視覚によって考察が容易に考えられるようにした。

手だて② ワークシート	観察や観測の結果を絵やグラフ化することで，思考力・判断力・表現力の育成につなげ感性を育てる。
----------------	--

実験2 引っ張る長さを変えれば，ゴムの力はどうなるのだろうか。

2015年6月

出席番号	ゴムが1本		
	5 cm	10 cm	15 cm
1	2 m 31 cm	4 m 74 cm	8 m 8 cm
2	1 m 30 cm	5 m 10 cm	8 m
3	1 m 22 cm	4 m 30 cm	6 m 30 cm
4	1 m 95 cm	4 m 2 cm	8 m 35 cm
5	1 m 70 cm	4 m 10 cm	7 m 3 cm
6	2 m 15 cm	5 m 28 cm	10 m 3 cm
7	1 m 99 cm	5 m 40 cm	10 m
8	1 m 95 cm	6 m 30 cm	9 m 15 cm
9	1 m 50 cm	4 m 35 cm	8 m 90 cm
10	1 m 50 cm	5 m 20 cm	9 m
11	1 m 90 cm	5 m 97 cm	10 m 40 cm
12	1 m 76 cm	6 m 40 cm	8 m 75 cm
13	2 m 78 cm	5 m 18 cm	10 m 3 cm
14	1 m 5 cm	5 m 20 cm	8 m 10 cm
15	1 m 25 cm	4 m 57 cm	8 m 25 cm
16	1 m 50 cm	5 m 9 cm	8 m 98 cm

↓ ↓ ↓
 1 m 5 m 8 m

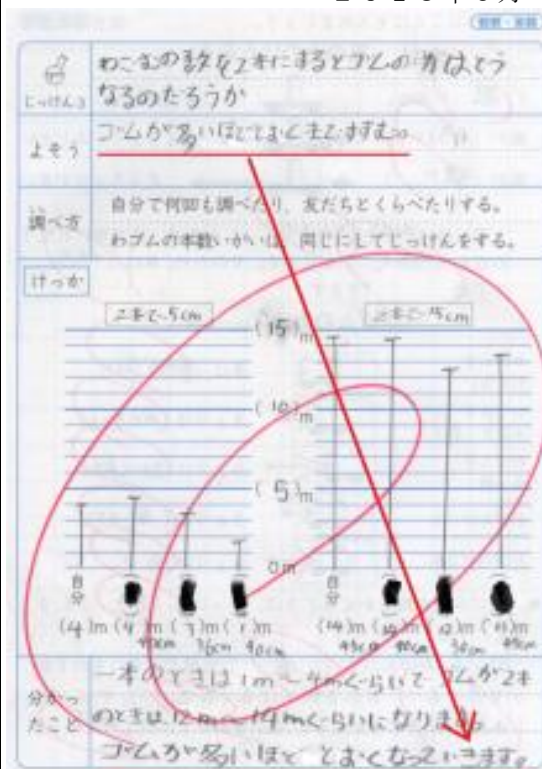
実験3 わゴムの本数をかえれば、ゴムの力はどうなるのだろうか。

2015年6月

出席番号	ゴムが2本		
	5 cm	10 cm	15 cm
1	2 m 6 1 cm	9 m 2 6 cm	1 3 m 4 0 cm
2	1 m 9 0 cm	9 m 1 0 cm	1 3 m 5 0 cm
3	1 m 9 0 cm	6 m 7 0 cm	1 1 m 5 0 cm
4	1 m 5 0 cm	8 m 1 6 cm	8 m 9 cm
5	—	1 0 m 6 5 cm	1 5 m 1 0 cm
6	3 m 9 0 cm	9 m 9 0 cm	1 3 m 2 0 cm
7	4 m	8 m 8 9 cm	1 4 m 4 3 cm
8	4 m 4 0 cm	8 m 2 5 cm	1 4 m 4 0 cm
9	3 m 3 6 cm	9 m 4 0 cm	1 2 m 3 0 cm
10	1 m 9 0 cm	8 m 9 0 cm	1 3 m 4 5 cm
11	4 m 2 0	9 m 4 0 cm	1 4 m 3 0 cm
12	—	3 m 6 0 cm	1 3 m 5 0 cm
13	—	3 m 3 0 cm	1 4 m 4 5 cm
14	2 m 3 6 cm	8 m 9 0 cm	1 2 m 5 0 cm
15	3 m 8 4 cm	9 m 5 cm	1 3 m 4 0 cm
16	2 m 3 cm	6 m 4 2 cm	1 1 m 2 2 cm

↓ ↓ ↓

2 m 9 m 1 3 m



わゴムを引く長さは変えずに、ゴムの数を比較して考察できている。

手だて③ 学びのつながり	小・中学校の学びのつながりを意識し、創造性を育む
-----------------	--------------------------

3年生では「ゴムや風のはたらき」の実践を行った。その中でエネルギーに視点をあて、「ゴムにはエネルギーをためることができる」という考えと「ゴムの力で起こす風は制御できる」という二つのことを学ばせた。さらに、「自然に吹く風は制御できない」ことを体験し、単元の終わりには「風力発電」を知らせ、自然の風は制御することは難しいが「風を持つエネルギーを利用し生活している」ことを学ばせた。佐那河内村には大川原高原には風車がある。エネルギーの問題として身近なことにも目を向けさせたい。

《5年生》

地域の方の協力を得て稲作づくりをしている。5月に田植えをして、9月に鎌を使っての稲刈り、はで干しをする。11月におはぎづくりをした。また1月には食生活改善推進委員の方から郷土料理を学んだ。「いりめし」と「そば米汁」を作り、佐那河内の味を受け継いだ。『食』を通して人との出会いの機会を得ること

ができた。

《ボランティア》

27年度は「ユネスコ世界寺子屋運動」への書きそんじハガキを児童会の呼びかけで行った。1枚のハガキが誰かのために役立つことで国際協力できるという小さなことからボランティアのきっかけ作りを始めようと考えている。

○おわりに

このように本校では「人」や「もの」との出会いから「学ぶ」学習を進めている。そして、自尊感情を高め、ふるさとを誇りに思う人づくりを進めていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

)